

1 本年度の重点教育目標

◆よさを生かし、新たな課題の解決に向き合う子供の育成

2 本年度の取組の重点 「子供のよさや可能性を最大限に発揮させる学校」づくり

- ①教育目標の達成に向けた協働体制による業務の推進，計画・実践・評価・改善のサイクルの確立
- ②地域の特性を活かした知徳体の調和のとれた教育活動の推進，「生きる力」を育むために目指す「資質・能力」の育成
- ③一人一人の子供の学びと成長を確実に支えるための教師の資質・能力の向上
- ④「信頼と協力」「規律と節度」を意識できる支持的風土に根ざす学年・学級経営
- ⑤小中連携した統合業務の推進とコミュニティ・スクールとしての地域と共にある学校づくり
- ⑥心身にゆとりをもって子供の向き合う時間の確保に向けた業務改善

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①	○教育目標の達成に向けた協働体制による業務の推進，計画・実践・評価・改善のサイクルの確立 ・指導と評価の一体化 ・各種調査等に基づく，客観的データを活用した指導 ・特別支援学級，通常学級への支援の充実 ・子供一人一人の成長に目を向けた学年・学級経営，分掌計画の工夫 ・学校自己評価や保護者，児童アンケート，学校関係者評価の活用	a	・校務処理型から課題解決型への教師側の意識転換を進める。 ・個を生かしながら集団としての学びを意識した指導を進める。	A	A	
②	○地域の特性を活かした知徳体の調和のとれた教育活動の推進，「生きる力」を育むために目指す「資質・能力」の育成 ・各教科，領域における「見方・考え方」を鍛え，「資質・能力」（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」）の育成を目指す授業づくり ・「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「言語能力」の育成 ・キャリア教育の充実 ・総合的な学習の時間の充実 ・道徳教育の推進	a	・活動準備および活動中に，目標を意識した本時の目標確認を常態化する。 ・個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業改善を図る。	A	A	

③	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の子供の学びと成長を確実に支えるための教師の資質・能力の向上 ・協働による研究を充実させる校内体制の確立 ・G I G Aスクール構想を生かした授業改善 ・今日的な教育課題の解決を図る児童の充実, 改善 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット導入後の授業改善の為, 計画的に研修を行う。一人一台端末の効果的な利活用を推進していく。 	A	A	
④	<ul style="list-style-type: none"> ○「信頼と協力」「規律と節度」を意識できる支持的風土に根ざす学年・学級経営 ・児童理解にもとづく指導の徹底 ・自己有用感, 自己肯定感の育成 ・けじめ(規律と節度)のある学校生活の指導 ・子供同士の間関係づくり ・「いじめの問題」「不登校の問題」の未然防止, 早期発見, 早期対応 ・「教育相談体制」の充実 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・児童理解をより深め, 児童のメンタルヘルスの維持を継続する。 ・保護者との連携をさらに深めるため組織的な対応と情報の共有を進める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・対応は良い。 ・いじめのない学校を目指して欲しい。 ・コロナ拡大で生活様式が変化し, メンタル面での負担が大きく, より細やかな対応をお願いしたい。
⑤	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携した統合業務推進とコミュニティ・スクールとしての地域とともにある学校づくり ・南茅部小学校, 南茅部中学校の開校に向けての業務 ・家庭, 地域と連携した学校づくり 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・統合時に必要な全体計画の作成・改善を行う。 ・各種通信やメールを活用し必要な情報の共有に努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新校の開校に向けては現状会議等が延期とスムーズにいかずご苦労されていますが, よろしくお願い致します。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> ○心身にゆとりをもって子供と向き合う時間の確保に向けた業務改善 ・見通しをもって計画的な評定作業 ・校務支援システム「C4th」の活用 ・変形労働時間制の活用 ・個々におけるタイムマネジメントの促進 ・教材費等の口座振込システム ・ICTを活用した教材の共有化 ・専科教員の配置による業務の改善 	a	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムマネジメント意識の向上と業務改善との両立を図る。 	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり, 取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが, 若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが, 若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。